

1 講 評

①第三者評価機関名

社会福祉法人茨城県社会福祉協議会

②施設名等

名称	: こどもの里	種別	: 児童養護施設
施設長氏名	: 飯 田 三 年	定員	: 40名
所在地	: 茨城県水戸市成沢町904-6	TEL	029-222-9105

③実施調査日

平成25年11月20日 ~ 平成27年3月10日

④総評

◇特に評価が高い点

入所児全員が食堂に集まり食事を摂るなど、大舎制になっているが、居室については幼児を除いて個室、ないしは2人部屋になっており、個人の空間が確保できるよう配慮している。

事務室や調理室の職員も子どもの様子に変化を感じた場合には、指導員に伝えるなど、職員全員が子ども一人ひとりの成長を見守っている。

施設長は子どもへの言葉使いを含めて体罰にあたらないかを日常的に検証したり、内部研修を実施するなど、職員は体罰を行わない支援に取り組んでいる。

施設長への職員の信頼は厚く、頼れる存在として認め、職員が仕事を進める上での安心感につながっている。

◇改善が求められる点

管理者室と隣り合わせに相談室が設置されており、子どもが相談相手を選ぶことには限定されてしまう可能性が考えられるので、誰にでも、どのような内容でも相談をすることができる相談室の趣旨を考慮され、相談室の設置場所に配慮することを期待します。

⑤第三者評価結果に対する施設のコメント

要改善事項とされました子どもの相談スペースについては、建物の構造上の制約はありますが、工夫して実現できるように検討します。

なお、現相談室は、主として家庭支援専門相談員が子どもの親等と面談する場として設置されています。

各項目ごとに改善を要するとされた点のうち、施設の中長期的な計画とこれに基づく各年度の事業計画の策定並びに人事管理や研修体系の確立については、職員に対する子どもの信頼感をより高めることを重視しながら、今年度内に策定予定の「こどもの里家庭的養護推進計画」を踏まえて、職員配置計画とあわせて整備することとします。

また、その他の要改善事項についても、子どもの最善の利益という観点を堅持して、引き続き努力します。

⑥第三者評価結果(別紙)

(別紙)

第三者評価結果

1 養育支援

(1)養育・支援の基本	第三者評価結果
① 子どもの存在そのものを認め、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止め、子どもを理解している。	b
② 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b
③ 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保証している。	b
④ 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
⑤ 秩序ある生活を通して、基本的生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 子ども達の学びの場を確保し、学習意欲を高めるために大学生のボランティアを活用している。 子ども会等でゲームやインターネットなどを利用する際のルールを決め、子ども達が自由に遊べるようにしている。 職員は子どもとの触れ合いの時間を確保するため、より一層工夫することを期待します。	

(2)食生活	第三者評価結果
① 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	b
② 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a
③ 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	b
(3)衣生活	
① 衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを提供している。	b
② 子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
(4)住生活	
① 居室等施設全体がきれいに整美されている。	b
② 子ども一人一人の居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	a

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

居室の掃除は、職員も子どもと一緒に行うように努め、アレルギーの子どもに配慮をするなど、清潔な環境を確保している。

食事は、子ども達の発達段階や嗜好に配慮して提供しているが、外食の機会や自立のための調理実習等の回数をさらに増やすことを期待します。

子どもの好みに合った衣服を選ぶことは難しいが、できるだけ自己選択ができるように工夫することを期待します。

食堂やリビング、廊下などは、清潔な環境を確保することができているが、優しさや柔らかさを感じる家庭的な生活空間となるように工夫することを期待します。

(5)健康と安全	第三者評価結果
① 発達段階に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理ができるよう支援している。	a
② 医療機関と連携して一人一人の子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	a
(6)性に関する教育	
① 子どもの年齢・発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 医療機関と連携し、発達段階に応じて自己管理ができるように支援をしている。 性教育については、子どもの必要性に応じた取組は行われているが、外部研修に参加したり、内部研修を実施するなど、計画的に取り組むことを期待します。	

(7)自己領域の確保	第三者評価結果
① でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	a
② 成長の記録(アルバム)が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	a
(8)主体性、自律性を尊重した日常生活	
① 日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちの問題として主体的に考えるよう支援している。	a
② 主体的に余暇を過ごすことができるよう支援している。	a
③ 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 行事や余暇活動については、子ども達の主体性を考慮し、体験旅行等の年齢に応じた各種取り組みが行われている。 小遣いについては、担当職員が小遣い帳を基に月末に個別指導を行い、失敗した時でも失敗を経験として学ばせながら指導をしている。 成長のアルバムは整理されているが、写真の少ない子どもや目立たない子どもに配慮することを期待します。	

(9)学習・進学支援、進路支援等	第三者評価結果
① 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	b
② 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
③ 職場実習や職場体験等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点) インターネットの利用や学習ボランティアの活用など、学力に応じた支援に努めている。 中学生や高校生の体験旅行については、子どものみで計画・実施をしており、職員は見守り支援をしている。 職場体験の一環として、職員は送迎をしたりしてアルバイトを支援している。	

(10)行動上の問題及び問題状況への対応	第三者評価結果
① 子どもが暴力・不適応行動などの問題行動をとった場合に、行動上の問題及び問題状況に適切に対応している。	b
② 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
③ 虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合、施設内で安全が確保されるよう努めている。	a
(11)心理的ケア	
① 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 子ども間のいじめや暴力に対しては早期発見に努めている。 問題行動が生じた場合には、他の子どもに影響がないように配慮し、問題行動をとった子どもの分離に努め、冷静に問題行動を客観視ができるよう話し合っている。 保護者の強引な引き取りに対しては、関係機関と連携を図りながら対応をしている。	

(12)養育の継続性とアフターケア	第三者評価結果
① 措置変更又は受入れに当たり継続性に配慮した対応を行っている。	b
② 家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰後の支援を行っている。	c
③ できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	c
④ 子どもが安定した社会生活を送ることができるよう退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 就職後に「離職したい」などの相談に対応している。 退所後の子どもの様子については、子どもや家族、児童相談所等から情報として受けているが、子どもが家庭復帰後に、家庭で安心した生活ができるよう、組織として継続的に支援していくことを期待します。	

2 家族への支援

(1)家族とのつながり	第三者評価結果
① 児童相談所や家族の住む市町村と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。	a
② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。	a
(2)家族に対する支援	
① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 子どもと家族の関係については、家庭支援専門員を中心に児童相談所や家族の住む市町村と連携を図りながら、必要に応じて家庭訪問を実施し、親子関係の再構築に向けて積極的に取り組んでいる。 面会や外出、一時帰宅後の様子については、注意深く観察をして育成記録に記載し、部門会議や全体会議で情報を共有している。 面会の時に親子訓練室を使って関係づくりをしている。 家庭訪問で親子関係の調整を図っている。	

3 自立支援計画、記録

(1)アセスメントの実施と自立支援計画の策定		第三者評価結果
①	子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、子どもの個々の課題を具体的に明示している。	b
②	アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。	b
③	自立支援計画について、定期的実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。	b
(2)子どもの養育・支援に関する適切な記録		
①	子ども一人一人の養育・支援の実施状況を適切に記録している。	a
②	子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。	b
③	子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 子どもの日常の生活や子どもとの話し合いの中から、担当者が子どものニーズの把握に努め、自立支援計画の原案を作成し、自立支援委員会で原案を基に検討された後に自立支援計画を作成している。 自立支援計画を作成する際には、発達段階に応じたアセスメント表やモニタリング表を活用することを期待します。		

4 権利擁護

(1)子どもの尊重と最善の利益の考慮		第三者評価結果
①	子どもを尊重した養育・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。	b
②	社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	b
③	子どもの発達に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	b
④	子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。	b
⑤	子どもや保護者の思想や信教の自由を保障している。	a
(2)子どもの意向への配慮		
①	子どもの意向を配慮する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、養育・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。	b
②	職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組む。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 毎月子ども会を開催し、行事や施設内のルール等を職員と子どもと一緒に考える機会としている。 職員は子どもの目線に立ち、子どもの心の理解に努め、その子どもにとっての最善の利益を考えながら支援に努めているが、職員の共通理解が図れるよう取り組むことを期待します。		

(3)入所時の説明等		第三者評価結果
①	子どもや保護者等に対して、養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。	a
②	入所時に、施設で定めた様式に基づき養育・支援の内容や施設での約束ごとについて子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
③	子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	a
(4)権利についての説明		
①	子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b
(5)子どもが意見や苦情を述べやすい環境		
①	子どもが相談したり意見を述べたりしたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。	b
②	苦情解決の仕組みを確立し、子どもや保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。	a
③	子ども等からの意見や苦情等に対する対応マニュアルを整備し、迅速に対応している。	b
(6)被措置児童等虐待対応		
①	いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a
②	子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
③	被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	a
(7)他者の尊重		
①	様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 入所時には、子どもや保護者に施設のパンフレットや「子どもの里養育方針説明書」で説明をしている。入所に伴う親子分離の不安を解消するため、必要に応じて事前面談を実施している。施設長は、子どもへの言葉使いを含めて体罰にあたらぬかを日常的に検証したり、内部研修を実施するなど、職員は体罰を行わない支援に努めている。 ドッチボール大会やソフトボール大会、キャンプ、グループ遠足など、様々な体験を通じて共に暮らす仲間に対して助け合いや思いやりの心の成長を促している。		

5 事故防止と安全対策

(1)事故防止と安全対策		第三者評価結果
①	事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。	b
②	災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	a
③	子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策の検討を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 火災や地震、感染症等のマニュアルは整備されているが、日常的にチェックができる表を作成することを期待します。 生活支援委員会でヒヤリハット事例の検討をしているが、組織として要因分析を行い、リスクへの対応が図られることを期待します。 備蓄品については、3日分程度の備蓄をしているが、備蓄品を有効活用するためにも、非常食の献立を作成することを期待します。		

6 関係機関連携・地域支援

(1)関係機関等の連携		第三者評価結果
①	施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。	a
②	児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。	a
③	幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校など子どもが通う学校と連携を密にしている。	a
(2)地域との交流		
①	子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。	a
②	施設が有する機能を地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。	b
③	ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。	a
(3)地域支援		
①	地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	b
②	地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。	c
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 児童相談所とのケース会議や中学校のPTAの会合、子供育成会の役員会等で他機関と連携を図っている。 中学校では野球部の部活支援を行うことで、教員と連携を図っている。 毎月、学校に子どもの会計費用を持参する際に、子どもに関して情報交換をしている。 こどもの里祭りでは地域住民を招待するなど、地域との交流を深めている。 ピアノや学習等のボランティアを受け入れているが、受け入れマニュアルなどの体制を整備することを期待します。		

7 職員の資質向上

(1)職員の資質向上		第三者評価結果
①	組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	b
②	職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	c
③	定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。	c
④	スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上を支援している。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 外部研修に参加した職員が、施設内研修で他の職員に伝え、情報の共有化を推進することを期待します。 研修体系を確立し、職員の資質向上に努めることを期待します。 スーパーバイズを主任指導員と看護師により行われているが、組織として明確にすることを期待します。		

8 施設の運営

(1) 運営理念、基本方針の確立と周知		第三者評価結果
① 法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。		b
② 法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。		b
③ 運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。		b
④ 運営理念や基本方針を子どもや保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。		b
(2) 中・長期的なビジョンと計画の策定		
① 施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。		c
② 各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。		c
③ 事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。		c
④ 事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。		b
⑤ 事業計画を子ども等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。		c
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 事業計画に運営理念等は明記しているが、施設の使命や役割を整理され、明文化することを期待します。 施設の基本方針は明記しているが、職員や子ども等への周知の方法に工夫することを期待します。 明確な中・長期計画を作成し、事業運営の実施や確認ができることを期待します。		

(3) 施設長の責任とリーダーシップ		第三者評価結果
① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。		b
② 施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。		a
③ 施設長は、養育・支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。		b
④ 施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。		b
(4) 経営状況の把握		
① 施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。		b
② 運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。		b
③ 外部監査(外部の専門家による監査)を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。		c
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 施設長は、自らも子どもの気持ちを理解するように努め、自らの考えや法令等について職員へ伝えるとともに、常に職員からの意見を取り入れている。 外部監査を取り入れ、客観的な視点を踏まえた運営改善に取り組むことを期待します。		

(5) 人事管理の体制整備		第三者評価結果
① 施設が目標とする養育・支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。		c
② 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。		c
③ 職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。		a
④ 職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。		a
(6) 実習生の受入れ		
① 実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。		b
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 職員の処遇や福利厚生に配慮をしているが、人事管理についてはプランや人事考課が行われておらず、適切に行われることを期待します。 実習生の受け入れにおいては、担当職員を決めて対応をしているが、受け入れプログラムを作成し、実習の取り組みが見える形になることを期待します。		

(7) 標準的な実施方法の確立		第三者評価結果
① 養育・支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。		b
② 標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを組織的に実施できるよう仕組みを定め、検証・見直しを行っている。		b
(8) 評価と改善の取組		
① 施設運営や養育・支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。		c
② 評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立て実施している。		c
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 毎年自己評価に取り組み、評価結果の分析や改善を通して、職員の養育・支援の取り組みや業務改善に対する意識を高め、養育・支援の質の向上に努めることを期待します。 一定の水準の養育・支援を行うためのマニュアル等を整備することを期待します。		